

(8) 近畿



近畿地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

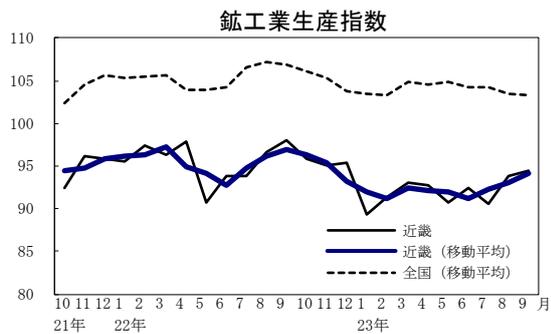
前回からの主要変更点

	前回 (令和5年9月)	今回 (令和5年11月)	
鉱工業生産	持ち直しの動きに足踏みがみられる	持ち直しの動きがみられる	↑

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

7-9月期の鉱工業生産は、前期比1.1%増となった。月別にみると、7月は生産用機械が減少したこと等により前月比1.9%減、8月は生産用機械が増加したこと等により同3.6%増、9月は化学が増加したこと等により同0.6%増となった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4-6 月期	7-9 月期	7月	8月	9月
化学	12.4	1.7	▲6.1	▲1.8	▲1.9	4.4
電気・情報通信機械	11.7	▲6.3	▲3.4	4.7	▲2.6	▲2.0
汎用・業務用機械	10.4	3.2	▲0.5	▲11.1	7.1	▲6.0
生産用機械	10.1	9.3	4.0	▲15.7	19.2	▲0.7
輸送機械	8.7	▲0.3	10.2	20.6	5.9	▲5.2
鉱工業	100.0	0.9	1.1	▲1.9	3.6	0.6

- (備考) 1. 2015年=100 (全国は2020年=100)、季節調整値。近畿の最新月は速報値。
2. 全国及び近畿の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 7-9月期、9月は速報値。

2. 個人消費の動向

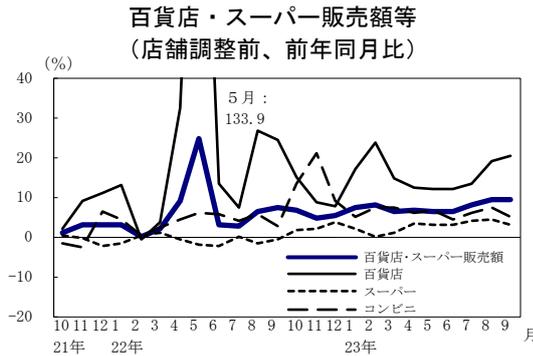
個人消費は持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7-9月期は前期比0.1%減となった。月別にみると、7月は前月比0.1%減、8月は同0.1%減、9月は同0.3%増となった。

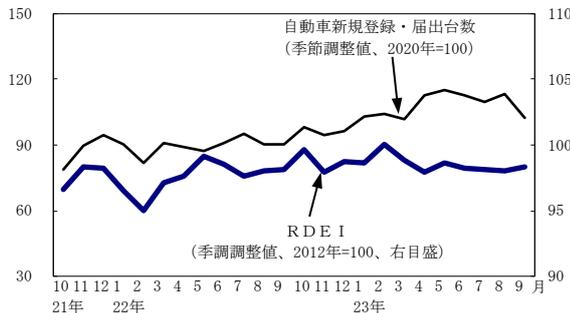
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、7-9月期は前年同期比8.9%増となった。月別にみると、7月は前年同月比7.9%増、8月は同9.3%増、9月は同9.4%増となった。



	2023年7-9月	2023年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	▲0.1	▲0.1	▲0.1	0.3
百貨店・スーパー(*2)	8.9	7.9	9.3	9.4
百貨店(*3)	17.4	13.5	19.1	20.5
スーパー(*3)	3.8	4.2	4.3	2.9
コンビニ(*3)	6.1	5.9	7.4	5.0
乗用車(*4)	16.3	15.1	23.8	12.0
(季節調整値) (*4)	▲4.4	▲2.8	3.5	▲9.3

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移

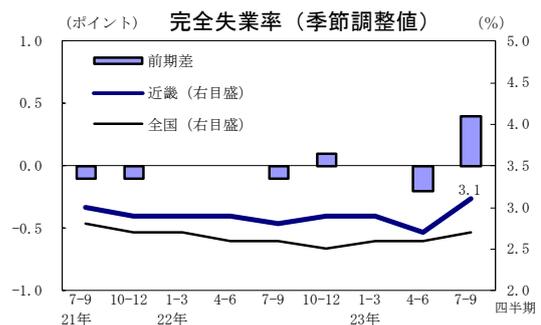
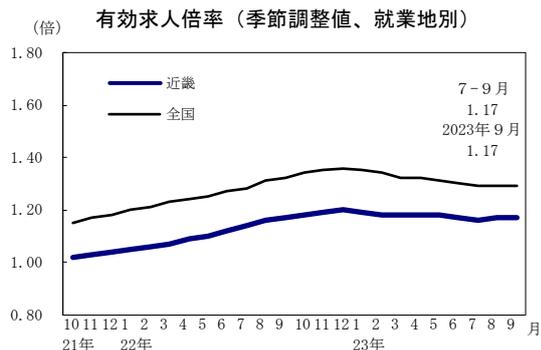


- (備考)
1. 季節調整済前期(月)比 (%)
 2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)
百貨店・スーパーは内閣府にて算出。
 3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)
百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の近畿(福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山)の値。
 4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段)前年同期(月)比(%)

3. 雇用情勢

雇用情勢は改善の動きがみられる。

有効求人倍率はこのところおおむね横ばいとなっており、前回の景気循環の平均的な水準にある(P10参照)。一般労働者の定期給与は上昇している(P10参照)。完全失業率は前期を上回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査（令和5年10月調査）景気判断理由の概要

8. 近畿

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

	分野	判断	判断の理由
	現状	家計 動向 関連	□
▲			・関西の百貨店は9月に在阪球団の優勝セールを実施し、好調となったが、10月は前年に行った優勝セールの反動が出た。また、9月に需要が前倒しとなった影響で、来客数の減少もみられる。さらに、百貨店の構造上の問題か、デパ地下での買い方の変化が目立つ。生鮮品などを買う年配客が大幅に減っている一方、その日に食べる総菜や菓子を買う、新たな客層が出てきたものの、全体の減少をカバーできない状況が続いている（百貨店）。
○			・気温の変化に伴い、朝晩の寒暖差も出てきたため、アウターやボトム商材を求める客が増えている（衣料品専門店）。
企業 動向 関連		□	・受注量の増加が続いており、イベント等の問合せも多い（出版・印刷・同関連産業）。
		▲	・物価の上昇に伴い、し好品の和装は購入が控えめとなっている。売上の減少は催事での販売状況に現れている（繊維工業）。
雇用 関連		○	・この時期としては気温が高く、インバウンド効果も続いていることで、飲食店向けの飲料の売上も少し良くなっている（食料品製造業）。
		□	・関西での新聞広告の推移をみると、3か月前と同様に、前年比で85%程度となっている。大阪・関西万博などの話題が増えているが、特に企業のプロモーション予算に変化はない（新聞社 [求人広告]）。
その他の特徴 コメント		○	・海外からの観光客が増え、観光業に活気があふれている。それに伴って求人数が増え、このところは求人単価も上昇している（人材派遣会社）。
		□	・車載用電装分野を中心に、やや好調な出荷量が続いている。また、家電や建設資材向けの出荷量も回復しつつある（化学工業）。
先行き		家計 動向 関連	▲
	□		・今後も物価の上昇が続く可能性が高く、最低限必要な物以外は、購入を控えると予想される。また、今年は暖冬の前報もあり、暖房器具などの売上が見込めない（家電量販店）。
	企業 動向 関連	○	・所得税減税の効果が、消費者の間に少し出てくる（乗用車販売店）。
		□	・大阪・関西万博の工期遅れにより、国家プロジェクトとして技能労務者がかき集められることになれば、工賃上昇や建設資材価格の高騰につながるおそれがある（建設業）。
	雇用 関連	▲	・家具の値上げが続くなか、客は必要最低限しか買物をしない（輸送業）。
		□	・インバウンドの回復による需要増加への対応を含め、人材確保を強く望む声が業種を問わず多い。求人意欲は旺盛な状態が続いていることから、求人は堅調に推移すると予想される。ただし、9月の新規求人数が季節調整値でも原数値でも減少となったほか、製造業を中心に、人件費を含む全ての物価の上昇が、利益の圧迫や受注の減少につながっている。求人を控えるという声も届いていることから、景気は横ばいで推移する予想している（その他雇用の動向を把握できる者）。
	その他の特徴 コメント	□	・最低賃金が引き上げられても、年収が106～130万円の範囲で働きたい人は多いため、人手不足は続く（職業安定所）。
		▲	・物価が上昇する一方、給与は現状維持というアンバランスな状況が、いつまで続くのかが気掛かりである。あらゆる買物や外食に、従来の1.2倍から1.5倍の費用が掛かっている。所得減税の話も期限付きであり、来年以降、これでは好景気を実感することは難しい（その他住宅 [住宅設備]）。

(D I) 現状・先行き判断D I（近畿）の推移（季節調整値）

